

式 辞

入学生の皆さん、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。

今、この瞬間から、富山福祉短期大学の学生として、『福祉や看護』に関わる自分づくりを進めていくことになります。

私たちが私たちの新しい未来を開いているこの瞬間、北朝鮮のミサイル発射に関わる報道の陰に隠れてしまっていますが、宇宙飛行士 若田光一さんは宇宙有人施設「きぼう」において、日本人初の長期滞在3カ月に命がけで臨んでいます。スペースシャトル・ディスカバリーが打ち上げられたのは3月16日ですから、すでに半月が経過致しました。

若田さんの「きぼう滞在記」が新聞等に掲載されています。「きぼう 未来へ」と題した最初のメッセージには、次のようなコメントが見られます。

「新たな有人宇宙活動時代を迎えるにあたり、今回のミッションに対する想いを『夢』『探求心』『思いやり』の三つの言葉に象徴しました。『夢』、宇宙が限りない夢を与えてくれる創造の空間であること。『探求心』は、新たな知見を得て暮らしに役立つ技術に応用していくために大切であること。『思いやり』は、仲間への思いやりがチームワークを高めるために不可欠であること、を意味しています。」というものです。

若田さんの三つの言葉『夢』『探求心』『思いやり』に込められた『想い』は、ある日、突然『想い』となったわけではありません。小さな『夢』の実現が、次の小さな『夢』をつくり、小さな『夢』を積み重ねて、『宇宙』という壮大な場所に『夢』は行き着きました。『宇宙』にはたくさんの星があるように、人の『夢』には、たくさんの『想い』が込められている。

富山福祉短期大学という校名に組み込まれた言葉『福祉』。『福祉』は、若田さんの言う『夢』と『思いやり』で出来ていると言ってもよいと思います。私たちの『福祉』の形は『夢』や『思いやり』と無関係ではありません。

さて、もう一つの若田さんの言葉『探求心』。『探求心』は、何かをつくり出していく力。本学では、このつくり出していく力を『社会性』『創造性』が働いた力として大切にしています。単に、つくり出すのではなく、つくり続けたい・・そういう意味で、本学の教育目標は、「つくり、つくりかえ、つくる」としています。私たちの合い言葉です。心の中で、いっしょに言ってみてください。「つくり、つくりかえ、つくる」。

つくり続けることは、若田さんの言う『探究心』です。

『夢』と『思いやり』を「つくり、つくりかえ、つくる」ことを重ねて、若田さんは、今、宇宙にいる。素晴らしいことです。私たちは、『夢』と『思いやり』をつくり、つくりかえ、つくることで、『福祉』という壮大な宇宙に出ていこう。

若田さんのメッセージは、次のような宣言文で結ばれています。

「『夢』『探求心』『思いやり』これらの想いを胸に、日本の有人宇宙活動のさらなる発展に貢献したいと思います。」

最後になりましたが、射水市長分家静男様をはじめとするご来賓の皆様には、日頃から本学の教育に関わり、ご支援賜り心から感謝申し上げます。また、保護者の皆様には、本日はご臨席賜りまして誠にありがとうございます。

私たちを取りまく社会情勢は、厳しいなかにあるにも関わらず、その問題性は先送りされています。私たちは「つくり、つくりかえ、つくる」という過程を、学生と共に求めていく覚悟でありますので、今後とも、お力添えをいただきますようお願い申し上げます。

「つくり、つくりかえ、つくる」という教育目標を私たちの『宣言』として、式辞と致します。

平成21年4月4日

富山福祉短期大学学長 北澤 晃